

兵庫県 の 蝶 (2)

揖保川水系の蝶相

尾 崎 勇

揖保川は西部播州地方の中央部を流れている延長69736mの川である。その源流は藤無山(標高1139m)で、支流の引原川(引原川の源流は藤無山の西部)と林田川(源流は雪彦山標高884m)の水を合わせて姫路市網干より瀬戸内海に注いでいる。

揖保川流域に産する蝶類は、県内に産する蝶の内、三種をのぞき、その全ての種を産する。

1) 河口附近

揖保川は河口近くで中川と元川とに分かれていて中州を造っている。中州の部落が姫路市網干区浜田である。河口は埋立てられて、二、三の工場と伐木港ができていたが、空地も多く、雑草が生い茂っている。

河口附近は温暖で西岸近くの揖保郡御津町室津ではナガサキアゲハが土着している。同地での幼虫の食樹は、アマナツカンとウンシュウミカンである。

他に御津町では、クロコノマチョウが採集されている。御津町内にはジュズダマが多く生育している。

1980年10月に、伐木港近くの空地でメスアカムラサキ1♂を目撃している。工場予定地内のエノキやヤナギでは、ゴマダラチョウやコムラサキの幼虫も採集できる。中川と元川との分岐点の中州で、シルビアシジミが多産している。ここより上流部は、西岸が蝶の採集にはよい。ウラキシジミ、ミドリシジミ、オオミドリシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミなど低地性のゼフ類も顔を出す。アオスジアゲハ、ジャコウアゲハも多産している。

(2) 前川 MAEKAWA

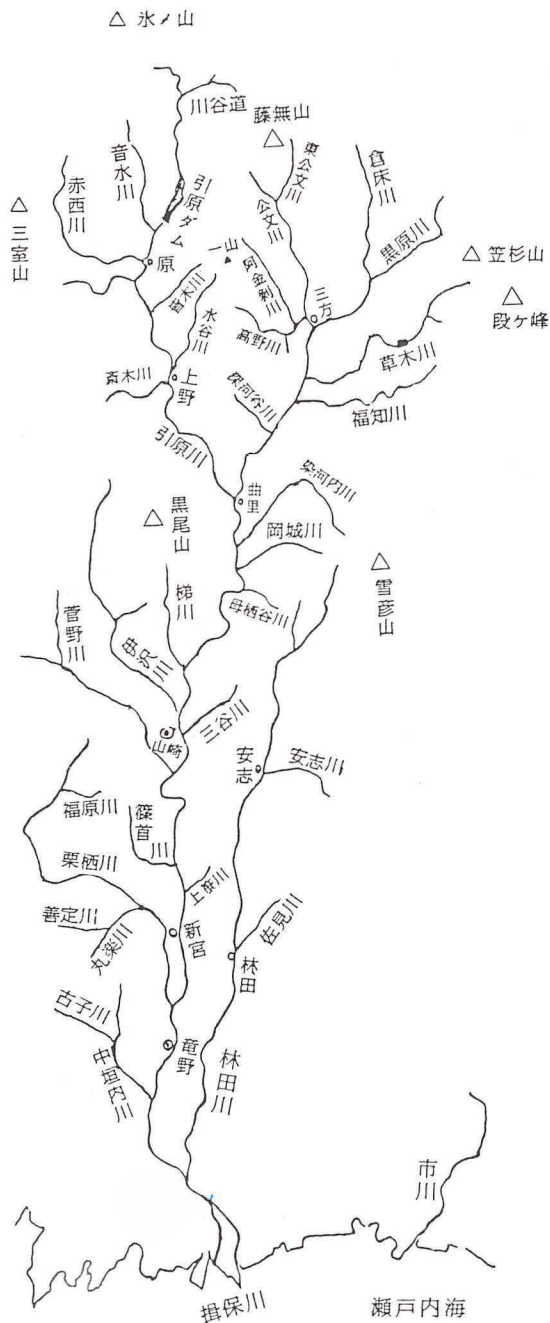
揖保郡揖保川町金剛山より本流へ合流しているのが前川である。前川流域では、ヒメカンアオイが2個所生育している。本州でのヒメカンアオイ自生地の西限である。同地ではギフチョウは発生していない。

(3) 林田川 HAYASHIDAGAWA

林田川の源流は雪彦山である。下流部は平野を流れているので、これといった蝶は採集されていない。

国鉄網干駅東部で、近年キマダラルリツバメが採集されている。姫路市林田町に入ると、六九谷でメスアカミドリシジミの幼虫やウラジロミドリシジミが採

揖保川水系図



集されている。安富町塩野では、ヒロオビミドリシジミも採卵されたが、食樹のナラガシワが伐採されてしまった。安富町安志より上流部では、だんだんと山地性の蝶が見られるようになった。ミヤマカラスアゲハ、スジボソヤマキチョウ、オオムラサキ、ミスジチョウ、スミナガシなどが採集されている。なぜかウスバアゲハは林田川流域より採集されていない。

同じ雪彦山より流れている夢前川上流部の坂根や熊部部落では採集されている。林田川へ流入している他の河川流域は、山も低く採集者も少ないのか、採集記録がほとんどない。

(4) 十文字川 DOZI GAWA

十文字川は竜野市鶏籠山国有林より流れている（揖保川への合流点1500m）小河川であるが、鶏籠山が公園で樹木が保護されているので昆虫は多い。特にアゲハチョウ類が多産している。林内にはカラスザンショウが多く、アオスジアゲハ、モンキアゲハ、クロアゲハ、アゲハ、オナガアゲハ、ナガサキアゲハ、カラスアゲハ、ジャコウアゲハが採集され、ミヤコアオイも生育している。竜野市内の寺院や古い民家の屋根にはツメレンゲが生育しており、クロツバメシジミが発生している。

(5) 栗栖川 KURISUGAWA

竜野の少し上流部で揖保川に流入しているのが栗栖川である。栗栖川は揖保郡新宮町全域を流れている。

栗栖川流域では、ヒロオビミドリシジミ、ウラジロミドリシジミ、ウスイロオナガシジミ、ウラミスジシジミのほか低地性のゼフ類が採集されている。上流部ではミスジチョウも発生しているが個体数は少ない。

同川へ流入している福原川流域へは調査に入ることがないが、上流部でもあり、あまり植林もされていないので採集にはよさそうなどころである。

(6) 菅野川 SUGANOGAWA

山崎の町の少し下手で西方より流入しているのが菅野川である。このあたりまで来ると山地性の蝶が姿をみせ出す。青木部落では、ヒロオビミドリシジミとウラジロミドリシジミが採集されている。上流の部落塩田では、ウラミスジシジミとミスジチョウの幼虫が採集されているが、ウスアゲハは産しない。

(7) 伊沢川 ISOGAWA

黒尾山の西部を源流として山崎の街中で揖保川本流へ合流しているのが伊沢川である。上流の岩上神社周

辺ではスミナガシを産している。上ノ上部落ではウスバアゲハが採れる。神社より上は林道になっていて植林が進んでいるが、植林地を抜けるとやがて自然林がみえてくる。道もなくなるが川沿いに進むとウラクロシジミ、ヒサマツミドリシジミ、アイノミドリシジミ、メスアカミドリシジミが採卵されている。

上ノ上部落より右手に上って行くと道は急坂となる。

このあたりは近年伐採されているが、ところどころに原生林の名残りらしきところもある。スギタニルリシジミ、メスアカミドリなどが採れる。さらに上るとやがて牧場へ出る。牧場ではヒョウモンチョウ類が多産している。このあたりまで来ると、伊沢川も小溝となっている。ミスジチョウも採集されている。

(8) 梯川 KAKEHASHIGAWA

山崎の街を出て国道29号線を北上すると五十波部落で、本流へ合流しているのが梯川である。同川も黒尾川南面を源流としている。梯部落より上流は林道となっている。蝶の卵採集には林道がよい。ヒサマツミドリシジミ、フジミドリシジミ、メスアカミドリシジミなどが採卵されている。ほかにスミナガシ、ウラキンシジミ、クロツバメシジミ、ミヤマチャバネセセリの採集記録もある。

(9) 母栖谷川 MOSUDANIGAWA

母栖谷川は東方より本流へ流れ込んでいる小川である。奥の母栖部落は山の中腹にある小さな集落で蝶の採集者もあまり訪れない所である。筆者は2度の調査行では特筆すべき種は出なかったが、オオムラサキを目撃している。部落より山の中腹を北へ行く小道があり、30分程雑木（コナラ、クスギ林）を行くと急に開け稲作地に出る。このあたりではヒメキマダラヒカゲ、スジグロチャバネセセリを産する。さらに小道は尾根へと続くが、だんだんと道は無くなり、いつの間にか原生林に入ってしまう。稜線を越えて東側の急斜面を下ると林田川の源流部へと出る。

原生林内では夏期でもあり雑甲虫が採集されたのみであった。

(10) 染河内川 SOMEGOUTHIGAWA

一宮町に入り東市場で東方より本流へ合流しているのが染河内川である。源流は峰山高原である。高原ではオオウラギンヒョウモン、ウスイロヒョウモンモドキなど草原性の蝶の記録がある。だが近年はひらけてしまい登山者も多くなって、蝶も少なくなり同好者はあまり採集に行かなくなった、1960年頃はよい採集地

であった。

(11) 引原川 HIKIHARAGAWA

一宮町曲里で揖保川は大きく分かれる。上流に向かって左方より合流しているのが引原川である。引原川は氷の山の南面と水無山の西面を源としている。

引原部落は、昭和30年より始まった引原ダムによって湖底に沈んだ。筆者は若かりしころ（1953年）に同地を訪れたことがある。そのころは細いガタガタ道をオンボロバスに揺られて、川に沿って奥へ奥へと進んだ。昆虫マニアの筆者には夢の様なところで、どちらを見ても原生林があり、道沿いには蝶、蝶、蝶であった。

(12) 斎木川 SAIKIGAWA

引原川への合流点是有賀部落で、斎木川に沿って上り峠へ越えると千草町に通じる。途中千草カントリーを経てウスイロヒョウモンモドキやオオヒカゲの多産する鷹巣部落に通じる道もある。また伊沢川の源流部へも通じている。近年斎木川筋は伐採されて魅力のなくなった川筋である。引原川流域でのウスバアゲハはこのあたりから発生している。

(13) 水谷川 MIZUTANIGAWA

一山の西面を源とするのが水谷川で、引原川への合流点は上野部落である。水谷川筋は植林が進み、行けども行けども杉だらけである。水谷部落周辺では夏期コムラサキ、ヒメキマダラヒカゲ、ホシチャバネセセリを産する。スジグロチャバネセセリも産する様であるが、筆者の調査では発見できなかった。川筋では、春期オナガアゲハが多産する。川筋の途中で一宮町三方に通ずる林道がある。筆者も一度林道を三方部落へと越えたことがあるが、死の道である。

道の両側が杉林で小鳥の声も聞こえず、たまに飛行している蝶はホソバセセリのみであった。部落より東山に通ずる林道があり途中に湿地帯がある。かつてはこの附近でヒョウモンモドキが産した。湿地附近では蝶類は多種産している。オオヒカゲ、ヒメヒカゲ、キマダラモドキ、オオウラギンスジヒョウモンなどが発生している。少ないがスジグロチャバネセセリ、ハヤシミドリシジミも産する。しかし湿地の回りは植林されており、10年後にはこの地も死の谷となるであろうか。

(14) 皆木川 MINAKIGAWA

水谷川の少し上流で、一山の西面を源に引原川に合

流しているのが皆木川である。皆木部落ではウスバアゲハが多産している。だが川は小さく、近くには赤西溪谷などの有名採集地があるのでどうしても通り過ぎてしまう。筆者も皆木部落より上流へは調査に入ることがない。一度は調査してみたいと思っている。

(15) 赤西川 AKASAGAWA

原部落が合流点で、三室山の東面を源としている赤西川は八丈川と共に蝶や甲虫の多産地である。八丈川の上流に播州地方一の不動滝がある。原部落には町立のサイクリングターミナルが建っている。音水、赤西の木材専用の森林軌道が有賀までついていたが、自動車運送に変わったことからこの軌道の一部をサイクリングロードにしている。家族連れの子供の昆虫採集には、引原川に添ってついているサイクリングロードもよい、蝶、トンボ、甲虫などの種々の虫が採れる。山地性の山野草も多種生育している。赤西川上流部は国有林で、伐採が急テンポに行なわれている。川の入口近くでは、スミナガシが多産し、ミヤマカラスアゲハ、カラスアゲハなどのアゲハ類が多数吸水しているのに会うこともある。上流へ行くにしたがって種々の蝶に出会う。溪流添のモミジの上部では、ミスジチョウがゆっくりと舞っている。雨上りにはががが吸水している。早朝には、ジョウザンミドリやエゾミドリのがの追飛行動も目撃できる。営林署小屋近くでは、オナガシジミも産している。ほかにヒサマツ、アイノ、メスアカミドリも発生している。

(16) 音水川 ONZUIGAWA

引原ダムのすぐ下流を合流点に三室山北東面を源にしているのが音水川である。音水川も蝶やカミキリムシの好採集地であるが、原生林の残されているのは谷の入口近くだけである。5月には音水部落でミヤマカラスアゲハやウスバアゲハの採集者を多く見かける。

現在の音水川上流部は伐採が進み植林されて、スギヒノキばかりである。林道の立入禁止のクサリがある場所までが採集にはよい。かつての音水川はうっそうとした原生林で、林道が開通する以前は川筋には栃の太木が多く、スギタニルリシジミの発生期（4月下旬）には、数百頭の蝶が乱舞していたのを思い出す。現在は栃も切られ数える程しか残っていない。

もちろんスギタニルリシジミも少なくなった。

音水部落入口で川に沿って（国道29号線からは谷下旧道がダムまで残っている。この道筋や川原でミヤマカラスアゲハが吸水している9月頃には、スジボンヤマキチョウも多産する。引原ダム（音水湖）の西岸は、

ダムのできた当時はダニが多く、通行困難な道であった。だが種々の蝶に出会った。アイノミドリシジミを採集したのも谷筋へ少し入った所であった。

現在は、車も通れ家族連れの採集にはよいだろう。秋にはスジボソヤマキチョウも多数みかける。

(17) 道谷川 DODANIGAWA

引原ダムをさらに上流へ29号線を行くと、戸倉部落がある。部落の手前で東より流入しているのが道谷川で、藤無山の北西傾面を源流としている。道は若杉峠を越えて養父郡大屋町若杉部落に通じる。道谷部落には新戸倉スキー場があり、夏期のスキー場は一面のスキ草原で、ウスイロヒョウモンモドキ、ギンイチモンジセセリが多産する。スキー場への道沿いではハヤシミドリシジミ、ミドリシジミを産し、少ないがクロシジミも発生している。峠近くでオオウラギンヒョウモンも採集されている。ヒョウモンモドキを目撃したとのことである。冬期のゼフ採卵では、メスアカ、アイノ、ジョウザン、フジなどのゼフ卵は赤西川、音水川、道谷川などの流域や戸倉峠方面では全種が採卵されている。戸倉スキー場でもウスイロヒョウモンモドキは発生している。ほかにミヤマカラスアゲハ、各種ヒョウモンチョウ類、スミナガシが多産している。峠が開通する以前、秋期にシートテハを目撃したこともある。

(18) 福知川 FUKUCHIGAWA

福知川は砥峰高原を源に揖保川本流に合流している。谷の入口附近よりマス釣場までのウラジロガシにはヒサマツミドリシジミが産卵している。5月中旬にはウスバアゲハが発生している。マス釣場より上流部にはメスアカミドリシジミが多産する。高原近くではジョウザンミドリシジミも産する。高原の湿地にはウスイロヒョウモンモドキ、ヒメヒカゲなどの草原性蝶を産する。高原方面に上らず川筋を上流へ進むと杉林となるが、さらに上流へ上ると急に開ける。

この辺まで来ると蝶の採集者も入山していない。

ウスイロヒョウモンモドキは多産している。ヒョウモンモドキやオオヒカゲの発生も可能な湿地草原である。草原を過ぎ急斜面の踏跡道を上ると稜線上へ出る。稜線を北に行くと千町峠へ出る。峠より東方へ下ると生野町へ、西方に下ると千町部落に出る。福知溪谷はミヤマカラスアゲハは少なく、カラスアゲハは多産する。ミスジチョウも発生している。

(19) 草木川 KUSAKIGAWA

福知部落より上流の福中部落で本流に合流しているのが草木川である。源流は千町川と言われ、笠形の山の西面より流れ出ている。この川筋には多種の蝶を産する。福中部落を川上へ進むと先づオオムラサキ、ゴマダラチョウを産する。少ないがヒロオビミドリシジミ、ウラジロミドリシジミ、ウスイロオナガシジミ、オオミドリシジミなどの場所もある。メスアカミドリシジミは川筋全域に発生している。さらに川上へ進むとウラジロガシが多くなり、ヒサマツミドリシジミ、ウラミスジシジミが発生している。やがて草木部落に出る部落内にはカラスアゲハ、ウスバアゲハ、アオバセセリを多産する。現在は草木部落へは峠を越える車道ができており、福中部落より草木部落への道は廃道となっている。車も通らずのんびりと採集できるよい道筋である。草木部落より千町部落までは平凡な道でカラスアゲハ、ウスバアゲハ、ヒョウモン類が採集されるぐらいであるが、一歩支谷に入るとエゾミドリシジミ、ジョウザンミドリシジミの産した谷もあったが、ミズナラが伐採されてしまった。

千町部落より但馬の奥田路部落へ出る旧峠路があり笠杉山西斜面はなだらかで草原である。かつては但馬牛の放牧場であったが、現在は放牧されていないそうである。笠杉山へは生野の段ヶ峰より稜線の道を行く方がよい。草原の凹地に湿地帯でもあれば、ヒョウモンモドキ、ウスイロヒョウモンモドキ、オオウラギンヒョウモンなどの草原性蝶の発生しそうな草原である。筆者はこの草原の調査はしていないが、調査してみたいと思っている場所のひとつである。

下千町部落より千町峠へと登る路がある。この路沿は、近年伐採され魅力のなくなった路である。千町峠にヒサマツミドリシジミが産することは、1965年頃には蝶マニアの間で話題になっていた。筆者も早朝に家を出て峠に登ったものである。峠には11時頃にたどりついた。13時頃稜線にゼフらしき蝶が姿をみせる。だがその頃になると決まって夕立がくるのである。2度ばかり目撃したが採集はできなかった。その後ヒサマツミドリシジミの幼虫の食樹がウラジロガシと発表され、段ヶ峰斜面にはウラジロガシが残されている所も多く、ヒサマツミドリも発生しているので、昔千町峠で目撃したのはやはりヒサマツであったのだなど、なつかしく、稜線を長いゼフ竿をかついで行き来したのを思い出す。筆者が最初にヒサマツの卵を採卵したのも草木川流域である。切り倒されて枝だけが残され、葉も枯れていたウラジロガシからであった。

②0 公文川 KUMONGAWA

公文川は東公文川、阿舎利川、高野川の流れを合わせて一宮町三方で揖保川に合流している。源流は藤無山である。三方部落周辺はウスバアゲハの多産地である。5月中旬頃に白い蝶が飛んでいけば、ウスバアゲハと思えばよい。ほかにオナガアゲハ、ミヤマカラスアゲハも多産する。上流の志倉部落附近では、スギタニルシジミが産する。阿舎利川上流の阿舎利部落でオナガシジミの採集記録もある。阿舎利川と高野川の合流点附近でジャコウアゲハが多産していた。同方面は桜が少なく、メスアカミドリは少ない。公文川流域の夏期の調査記録は少なく、ほかの蝶のことはあまりわかっていない。公文川上流より藤無山を越えて、養父郡大屋町若杉へ通ずる路もある。また志倉より引原ダムに通ずる小路もあるが、樹林が深く蝶は期待できない。

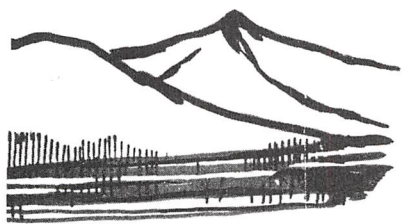
②1 黒原川 KUROHARAGAWA

黒原川は笠杉山の北方の無名峰を源流に、上片田部落で合流している。流域にはオオムラサキ、ミヤマカラスアゲハ、ヒサマツ、アイノ、メスアカ、ウラミスジ、ジョウザン、エゾ、ウラクロ、フジなど一通りのゼフ類は産する。ヒロオビミドリ、ウスイロオナガも発生している。黒原部落より朝来郡朝来町神子畑に通じる車道も開通している。採集には車道沿いよりも支谷に入った方がよく、思わぬ蝶が採集できる。

②2 倉床川 KURATOKOGAWA

倉床川は揖保川の最上流部の川である。富士野部落ではウスバアゲハを産する。部落より上流部へは筆者は調査に入っていない。調査行の際に、道路が伐採のため通行止になっていた。それ以後再調査の機会をもたない。上流部でのゼフ類の採卵では、フジ、アイノメスアカ、ジョウザン、ヒサマツなどが記録されている。

Isamu Ozaki 〒673 明石市藤ヶ丘2丁目10-7



揖保川水系に産する蝶類目録

Papilionida アゲハチョウ科

- 1) *Parnassius glacialis* BUTLER (ウスバアゲハ)
- 2) *Atrophaneura alcinous* KLUG (ジャコウアゲハ)
- 3) *Graphium sarpedon* FRUHSTORFER (アオスジアゲハ)
- 4) *Papilio machaon* C. & R. FELDER (キアゲハ)
- 5) *Papilio xuthus* LINNAEUS (アゲハ)
- 6) *Papilio helenus* LINNAEUS (モンキアゲハ)
- 7) *Papilio protenor* CRAMER (クロアゲハ)
- 8) *Papilio macilentus* JANSON (オナガアゲハ)
- 9) *Papilio memnon* VONSIEBOLD (ナガサキアゲハ)
- 10) *Papilio bianor* C. & R. FELDER (カラスアゲハ)
- 11) *Papilio maackii* FENTON (ミヤマカラスアゲハ)

Pieridae シロチョウ科

- 1) *Pieris rapae* LINNAEUS (モンシロチョウ)
- 2) *Pieris melete* MENETRIES (スジグロシロチョウ)
- 3) *Pieris napi* SHIROZU (エゾスジグロシロチョウ)
- 4) *Anthocharis scolymus* BUTLER (ツマキチョウ)
- 5) *Eurema hecabe* DE L'ORZA (キチョウ)
- 6) *Eurema laeta* JANSON (ツマグロキチョウ)
- 7) *Colias erate* MOTSCHULSKY (モンキチョウ)
- 8) *Gonepteryx aspasia* VERITY (スジボソヤマキチョウ)

Nymphalidae タテハチョウ科

- 1) *Melitaea diamina* FRUHSTORFER (ウスイロヒョウモンモドキ)
- 2) *Melitaea scotosia* BUTLER (ヒョウモンモドキ)
- 3) *Argynome laodice* MENETRIES (ウラギンスジヒョウモン)
- 4) *Argynome ruslana* JANSON (オオウラギンスジヒョウモン)
- 5) *Damora sagana* FRUHSTORFER (メスグロヒョウモン)
- 6) *Nephargynnis anadyomene* BUTLER (クモガタヒョウモン)
- 7) *Argynnis paphia* HEMMING (ミドリヒョウモン)
- 8) *Fabriciana adippe* BUTLER (ウラギンヒョウモン)
- 9) *Fabriciana nerippe* C. & R. FELDER (オオウラギンヒョウモン)
- 10) *Argyreus hyperbius* LINNAEUS (ツマグロヒョウモン)
- 11) *Limenitis glorifica* FRUHSTORFER (アサマイチモンジ)
- 12) *Limenitis japonica* MENETRIES (イチモンジチョウ)
- 13) *Neptis sappho* W. B. PRYER (コミスジ)
- 14) *Neptis philyra* BUTLER (ミスジチョウ)
- 15) *Neptis pryri* BUTLER (ホシミスジ)
- 16) *Araschnia burejana* BUTLER (サカハチチョウ)

17) *Polygonia c-aureum* LINNAEUS (キタテハ)
18) *Nymphalis xanthomelas* STICHEL (ヒオドシチョウ)
19) *Kaniska canace* VON SIEBOLD (ルリタテハ)
20) *Cynthia cardui* LINNAEUS (ヒメアカタテハ)
21) *Vanessa indica* HERBST (アカタテハ)
22) *Dichorragia nisimachus* ERUHSTORFER (スミナガシ)
23) *Apatura metis* BUTLER (コムラサキ)
24) *Hestina japonica* C.&R.FELDER (ゴマダラチョウ)
25) *Sasakia charonda* HEWITSON (オオムラサキ)

Lycaenidae シジミチョウ科

1) *Narathura japonica* MOORE MURRAY (ムラサキシジミ)
2) *Artopoetes pryeri* MURRAY (ウラゴマダラシジミ)
3) *Ussuriana stygiana* BUTLER (ウラキンシジミ)
4) *Iratsume orsedice* BUTLER (ウラクロシジミ)
5) *Japonica lutea* HWITSON (アカシジミ)
6) *Japonica saepestriata* HEWITSON (ウラナミアカシジミ)
7) *Wagimo signata* BUTLER (ウラミスジシジミ)
8) *Antigius attilia* BREMER (ミズイロオナガシジミ)
9) *Antigius butleri* FENTON (ウスイロオナガシジミ)
10) *Araragi enthea* JANSON (オナガシジミ)
11) *Neozephyrus taxila* BREMER (ミドリシジミ)
12) *Chrysozephyrus smaragdinus* BREMER (メアカミドリシジミ)
13) *Chrysozephyrus aurorinus* OBERTHUR (アイノミドリシジミ)
14) *Chrysozephyrus hisamatsusanus* NAGAMI & ISH IGA (ヒサマツミドリシジミ)
15) *Favonius saphirinus* STAUPINGER (ウラジロミドリシジミ)
16) *Favonius orientalis* MURRAY (オオミドリシジミ)
17) *Favonius cognatus* STAUDINGER (ジョウザンミドリシジミ)
18) *Favonius jezoensis* MATSUMURA (エノミドリシジミ)
19) *Favonius ultramarinus* FIXSEN (イヤシミドリシジミ)
20) *Favonius latifasciatus* SHIROZU&HAYASHI (ヒロオビミドリシジミ)
21) *Quercusia fujisana* MATSUMURA (フジミドリシジミ)
22) *Rapala arata* BREMER (トラフシジミ)
23) *Spindasis takanonis* MATSUMURA (キマダラルリツバメ)
24) *Callophrys ferrea* BUTLER (コツバメ)
25) *Lycaena phlaeus* SEITZ (ベニシジミ)
26) *Taraka hamada* DRUCE (ゴイシシジミ)
27) *Niphanda fusca* FRUHSTORFER (クロシジミ)
28) *Lampides boeticus* LINNAEUS (ウラナミシジミ)
29) *Zizeeria maha* MENETRIER (ヤマトシジミ)
30) *Zizina otis* DE L'ORZA (シルビアシジミ)
31) *Celastrina argiolus* DE L'ORZA (ルリシジミ)
32) *Celastrina sugitanii* MATSUMURA (スギタニルリシジミ)

33) *Everes argiades* MENETRIES (ツバメシジミ)
34) *Tongeia fischeri* EVERSMANN (クロツバメシジミ)

Satyridae ジャノメチョウ科

1) *Ypthima argus* BUTLER (ヒメウラナミジャノメ)
2) *Ypthima motschulskyi* MURAYAMA (ウラナミジャノメ)
3) *Minois dryas* MOTSCHULSKY (ジャノメチョウ)
4) *Harima callipteris* BUTLER (ヒメキマダラヒカゲ)
5) *Kirinia epaminondas* STAUDINGER (キマダラモドキ)
6) *Ninguta schrenckii* FRUHSTORFER (オオヒカゲ)
7) *Lethe diana* BUTLER (クロヒカゲ)
8) *Lethe ricelis* HEWITSON (ヒカゲチョウ)
9) *Neope nipponica* BUTLER (ヤマキマダラヒカゲ)
10) *Neope goschkevitchii* MENETRIES (サトキマダラヒカゲ)
11) *Micalesis gotama* FRUHSTORFER (ヒメジャノメ)
12) *Micalesis francisca* HEWITSON (コジャノメ)
13) *Coenonympha oedippus* BUTLER (ヒメヒカゲ)
14) *Melanitis phedima* CRAMER (クロコノマチョウ)

Curetidae ウラギンシジミチョウ科

1) *Curetis acuta* DE NICEVILLE (ウラギンシジミ)

Danaidae マダラチョウ科

1) *Parantica sita* MOORE (アサギマダラ)

Libytheidae テングチョウ科

1) *Libythea celtis* FRUHSTORFER (テングチョウ)

Hesperiidae セセリチョウ科

1) *Erynnis montanus* BREMER (ミヤマセセリ)
2) *Daimio tethys* MENETRIES (ダイミョウセセリ)
3) *Choaspes benjaminii* MURRAY (アオバセセリ)
4) *Leptalina unicolor* BREMER & CREY (ギンイチモンジセセリ)
5) *Aeromachus inachus* MENETRIES (ホシチャバネセセリ)
6) *Thoressa varia* MURRAY (コチャバネセセリ)
7) *Thymelicus sylvaticus* BREMER (ヘリグロチャバネセセリ)
8) *Thymelicus leoninus* BUTLER (スジグロチャバネセセリ)
9) *Ochlodes venata* BUTLER (コキマダラセセリ)
10) *Ochlodes ochracea* BREMER (ヒメキマダラセセリ)
11) *Potanthus flavum* MURRAY (キマダラセセリ)

- 12) *Isoetes lamprospilus* C. & R. FELDER (ホソバセリ)
 13) *Polytremis pellucida* MURRAY (オオチャバネセリ)
 14) *Pelopidas jansonis* BUTLER (ミヤマチャバネセリ)
 15) *Pelopidas mathias* EVANS (チャバネセリ)
 16) *Parnaguttata* BREMER & GREY (イチモンジセリ)

Papilionidae	11
Pieridae	8
Nymphalidae	25
Lycaenidae	34
Satyridae	14
Curatidae	1
Danaidae	1
Libytheidae	1
Hesperiidae	16
Total	111

9科111種の蝶が採集されている、県下に産する蝶116種(迷蝶は除く)の内揖保川流域に産しない種(他の河川流域には産する)は3種である。

Luedorfia japonica LEECH ギフチョウ

Narathura bazalus HEWITSON ムラサキツバメ

Lethe marginalis MOTSCHULSKY クロヒカゲモドキ

上記3種は採集報告はあるが発生期にその採集地を調査しても幼虫の食樹(食草)すら発見出来ないので揖保川流域の蝶としては除いておく。

だが近隣の河川流域に発生地があるので揖保川流域内で新産地が見付かる可能性はある。

ギフチョウは低山地帯よりもむしろ山地性のギフチョウの発生地を捜した方が良いと思われる。なぜならば黒原川の上流部は笠杉山の東方の部落朝来郡朝来町奥田路、神子畑(丸山川流域)で採集されている。倉床川の北方では養父郡大屋町明延で採集されているムラサキツバメとクロヒカゲモドキは相生市三濃山に発生地があるので竜野市西方新宮町南部を調査すれば見付かる可能性はある。

イシガキチョウは毎年目撃や採集記録が発表されているが土着種としては認めがたい、近県からの飛来蝶であろう。

ベニモンカラスジミ、カラスジミの採集報告も聞いているが確実性に乏しい(採集地で再発見されない)ので省いておく。

Isamu Ozaki 〒763 明石市

兵庫県の蝶雑記 (1)

広畑政己

1. 蝶数種の食草について

国内に生息するチョウの食草はほぼ全種に亘って明らかにされているが、地域によって、獲得している食草も様々で、一概に全国画一とはいかない。たとえばスギタニルリシジミのように、トチノキを食している地域もあれば、キハダ、ミズキのところもあるといった状態である。また、多化性の種においては、季節によっても食草が変化するものもあるが、はっきり解っていない種も多い。そのような訳で、県下においてもたぶんそんなものを食草にしているだろうということではなく、確認し、記録しておく必要があると思うので、数種の食草について次に報告をしておきたい。

(1) ホシミスジ

1983年5月1日に赤穂市春日にて山裾に生えているイブキシモツケで3頭の幼虫を確認した。県下では川西市等でユキヤナギ、コデマリの記録がある。

(2) ウラギンシジミ

1982年5月9日に姫路市広峰山にてフジの新芽より5卵を得ている。フジの花芽、花穂も探したが、卵は見つからなかった。夏から秋にかけてはクズの花で幼虫が見つかるが、フジの花はクズのように花の期間が長くないので新芽に産卵するのではないと思われる。

(3) サカハチチョウ

本種の食草はコアカソ、ヤブマオなどイラクサ科からの記録があるが、筆者は1981年8月23日に夢前町佐中にて同科のカラムシ属のクサマオに産卵中の本種を観察している。成虫は、クサマオの葉柄に2卵を積み重ねて産卵し飛び去った。クサマオの記録はないようなので報告する。

2. ジャノメチョウ科2種の幼虫の色斑について

ジャノメチョウ科のなかには、同じ種でありながら幼虫の色彩が違うものが数種ある。その中でクロヒカゲ、ヒカゲチョウでそれぞれ2型を観察しているので報告しておきたい。クロヒカゲは、相生市三濃山で同株のケネザサより緑色型、褐色有紋型をそれぞれ1頭得ている。赤西溪谷や加美町でも5頭の幼虫を採集したが、すべて褐色有紋型であった。もう1種のヒカゲチョウは、福崎町神谷で、第3～第5腹節に黄色紋がある幼虫を1頭得ている。また、夢前町菅生閭産の成虫から採卵して得た20数頭の幼虫は、すべて無紋の褐色の幼虫であった。

Masami Hirohuta 〒671-22 姫路市